

第32回

東京モーターサイクルショー

- 最新ツールが東京ビッグサイトに!
- 2人乗りで集結せよ!



春恒例、国内最大級の二輪車の祭典「東京モーターサイクルショー」が32回目を迎え、去る4月1日(金)より3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)において開催された。

開催初日である4月1日は「高速道路2人乗り走行」の解禁日、JAFも二輪車ロードサービス開始当日ということもありサービスカーを展示、高速道路での救援活動をPRしていた。



JAFは二輪車ロードサービスの開始にあたりリアタッチメントの開発や多目的積載車を導入

以降も「6月のAT限定免許の導入」や「小型二輪車の車検期間延長と6ヵ月点検廃止」などのニュースを控え、新しい時代への幕開けイベントと感じられるショーであった。



新型車、カスタムバイクが集結

会場ですぐ目に入るのは多くのカスタムバイク。開催初日に発売開始となった「MAXAM」



「仮面ライダーブレイド」も参上

カスタム化されたYAMAHA「MAXAM」



エアバッグ付きジャケット

バイク事故では、ライダーが大きな被害を受けやすい。身体を守るにはエアバッグが効果的



防水防塵構造の二輪車用ナビ Honda Access「Gathers M」



「ヒットエア付ジャケット」
作動時には、えり部分から
コアが飛び出し首を守る



今年はKAWASAKI「636Ninja ZX-6R」が斬られていた



との考えからライダー用のエアバッグ付ジャケットが展示されていた。この「ヒットエア付ジャケット」は「ジャケット（肩・肘パッド及び脊椎パッドのプロテクター付）」とエアバッグシステムを持つ「コア（ヒットエア）」の2つのアイテムが合体した構造で、「コア」に装着したカートリッジ式ガスボンベのキーがバイク本体と接続され、転倒などの過大なショックによってライダーとバイクが引き離された瞬間、キーがリリースされボンベが作動、コアが膨張してライダーの身体を保護するもの。コアに傷や破損さえなければ、ボンベを代えるだけで再使用が可能となっており、環境にも優しいものだ。ライダーの皆さんには是

非着用をお勧めしたい。



二輪車の活用が環境対策

最近の二輪車は、装備が充実し、上記のジャケットを着用すれば四輪車に引けをとらない安全で快適なものとなっ

てきている。環境に優しく、機動性も高く、経済的な二輪車に乗らない理由は少なくなってきた。しかし、街中を見してみると、自動二輪車を止められる駐車場が少なく、環境整備が遅れていることに気が付く。駐車環境が整備されれば、もっと二輪

車を活用する人が増え、渋滞が減り、CO₂排出量の削減にも貢献する。これからの環境対策には二輪車の活用が道を開くのではないだろうか。



東整振二輪自動車支部もブースを設け、日常点検の方法をPRした

YAMAHAより電動スクーター第2弾「EC-02」電気自動車導入補助金が受けられる



グラマラスなSUZUKI「BOULEVARD」



ハーフカウルを装備したHONDA「CB400 SUPER BOL D'OR」